仙台市科学館
蒲生調査レポート　速報版

No.86

2015.4.18

〒981-0903　仙台市青葉区台原森林公園4番1号
仙台市科学館　事業係
TEL:022-276-2201　FAX:022-276-2204
http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/

５度目の春

■蒲生干潟の現状

震災から5回目の春，現在の風景も見慣れたものとなってしまったが，以前のヨシが広がる姿には戻っていない。以前の豊かな干潟に戻るのか，長い目で調査をしていくことが必要であると考える。

■河口に多いイシガレイの稚魚

イシガレイの稚魚は今年も蒲生へとやってきている。一昨年まではFig.1の黄色部分で採集することができたが，昨年の４月は採集できなかった。昨年4月に採集した最小の個体は1.5cmで全体的に例年より小型であったため(Table.1)網の目より小さな個体を採集できなかった可能性を考え目の細かな手網を使用したが，今年も1匹しか採集できなかった。干潟内にはあまり侵入していないように思われる。これは干潟内と七北田川の間の水の出入りが不十分であることの可能性が考えられる。導流堤は一部を低くして水が出入りする構造となっているが(Fig.2)，海底に張り付いて生活するイシガレイの稚魚がこれを越えて干潟内に入るのは難しいのではないだろうか。以前の水門の構造(Fig.3)であれば，底に張り付いて生活する稚魚でも容易に干潟内に侵入できるのではないかと考える。今回採集したのはFig.1の赤色部分である。なお，今年も稚魚は小型の個体が多かった(Fig.4)。

Fig.1　イシガレイ採集地点

採集日	採集数	平均全長
2012年4月17日	24	2.79cm
2013年4月18日	8	3.25cm
2014年4月19日	9	2.22cm
2015年4月18日	32	2.09cm

Table.1　4月の平均全長

Fig.2　導流堤の低い部分

Fig.3　水門の跡

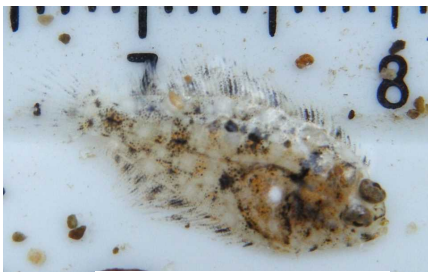

Fig.4　イシガレイ稚魚

■他の生物の様子

イシガレイの他に，ハゼやエビジャコ(Fig.5)，カワザンショウガイ(Fig.6)の仲間が観察された。アシハラガニの巣穴(Fig.7)もあちこちで見られ，気温の上昇とともに活動が活発になっていることがうかがえる。

Fig.5　エビジャコ

Fig.6　カワザンショウガイ

Fig.7　アシハラガニの巣穴

（佐藤　賢治）